
雪の行方

りらいず

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪の行方

【コード】

N4969P

【作者名】

りらいず

【あらすじ】

12月記念小説。恋愛ものは苦手です)

独りで食べるご飯

『今日は遅くなりそう。ご飯は先に食べておいて』

そんな無愛想なメールが届いたのはちょうど今日タイムセールของ安売りで買った秋刀魚が美味しい焼き頃になった時だった。

「2人分、作っちゃったじゃん・・・」

私はそう独り言を呟いた後
はあ、と深いため息をついた

最近、夫と上手くいっていないことはわかっていた。
先日、私と夫を知っている友人にも

「あなたたち、最近冷めてない？」と冷やかされた

別に私は、何かをしたつもりはない

普段通り毎朝あの人より早く起きて、簡単な朝食を作ってお昼ご飯の弁当をこしらえて、あの人を起こす。

あの方はまだ眠り足りないという、とろんとした目で「おはよう」とつぶやき

こうして私達の朝は始まる。

彼を送り届けた後は、私は普通の主婦のようにお掃除をしたり洗濯機をたくさん回したり

午後のワイドショーや昼にやっている再放送のドラマを見たり

それが見終わったら夕食の買い物に行つて、手頃な値段の食物を買つて帰り

夕食を作つてあの人を待つ。

ところが最近、夫と夕食をとつていない

夕食が出来た頃に決まつてあの人からのメール

『今日は遅くなりそう。ご飯は先に食べておいて』

毎日同じ文章だから、きつと再送機能を使っているのだろう

メールを打つことさえ面倒だと思われるんだと、私はまた深いため息をついた

デザイナーの仕事をしている夫はときどき急な仕事で

休日や深夜に会社に行くことは多々あつた

が、最近それがあまりにも多い

しかも、近頃は「帰りが遅い」のだ

結婚してまだ半年

当時の金銭の都合上、結婚式は開けなかったが、それでも慎ましく幸せに暮らしていた

(まさか、あの人が別の女の人と・・・)

顔立ちの良い彼は、会社でも人気の「イケメン部長」だった

そんな彼を夫に取つたのだから、そんな心配をしてしまうのも当然だ彼と結婚してから、私はそのデザイン会社を退社したため、現在の

会社の様子はわからない

もしかしたら、新入社員があの人のことを狙っているのかもしれない
断り切れない性格のあの方は、時々私に内緒で外出して………
・

……彼が帰ってこない一人きりの夕食時は、いつもそんなこと
ばかり考えていた

(今頃、あの方は一体何をしているのだろうか……?)
(真面目に仕事?それとも……)

こんな事を考えてはいけないということはわかっている
きつと、今頃熱心にデザイナーの仕事をしているのだろう

だが、どうしても『妻』としては不安になってしまう……

「早く、帰ってきて……」
独り言でそうでないような言葉を、私はぼつりと呟いた。

週末の朝

こんな生活が続いて、2週間が過ぎた

今日は12月の第4土曜日。つまり休日だ

この日も彼は「急な仕事が入ったから・・・」と言い、早朝から家を出た

私は「いつてらっしゃい」と彼を見送った

「『急な仕事』がここまで続いたら働き過ぎよ」

と、彼がドアを閉める直前、そう言っただけだった

彼にその言葉が届いたかどうかはわからないが、あの人はとても悲しい顔をしていた

まるで、私になにか隠し事があるかのように・・・

(何言ってるんだろ、私・・・あの人は仕事で忙しいというのに)

ふと、私は居間に飾ってある写真立てを見た

いつかのデートで撮った、あの人とのツーショット

「私『達』って今、幸せなのかな・・・？」
私は、写真に写っている満面の笑みを浮かべた女にそう言った
彼女は何も言わずに、ただその輝かしい笑顔を保ち続けていた。

狂気を含む妻

それからというものの、私の被害妄想が激しくなった

彼の携帯がなくなったとき、「仕事の電話だから」とベランダに行くあの人を疑ったり

「買い物なら僕が行くよ」と外に出る彼にも疑いを持ってしまつた。

そして、私の心も次第に壊れていくようになった

スーパーで売られている包丁を見れば

「この包丁であの人を刺してしまいたい」と考えるようになったり

2時間ドラマで、巧みなトリックで人が殺されているのを見たら

「この方法なら私でも殺せそうね」なんて笑ってみたり

もう、疑ってかかる生活は嫌だった。

だからって、あの人から離れたくない

それなら、あの人がいなくなればいいんじゃないか

若い彼だけど、毎日濃度の濃い味噌汁を作ったら、病死してくれるかしら

事故に見せかけて車が轢いてくれないかしら

もう、どうにでもなってしまうえ・・・！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4969p/>

雪の行方

2010年12月25日18時08分発行